

平成31年度 吉田南小学校の教育活動(グランドデザイン)



教育目標

かしこく やさしく たくましく

目指す子ども像 今の自分に**自信**をもち **夢**に向かって**努力**する子

今年度の重点 確かな学力と人間関係力を身に付け、自己有用感を高める子

【学力】 学習のあとを振り返り 学びを自覚する子

成果目標

- 「学びを自覚した」(3観点)と肯定的に答える児童を80%以上にする。
- 国語・算数の単元テストの正答率を80%以上にする。
- 学習スキルのすべての領域(「話す・聞く・書く」)で80%以上の児童が身に付けている。

具体的な方策

- 児童に学びの自覚の自覚を促す授業改善の取組を行う。
- 教材研究タイムで、授業の進め方や重点をかける場所・指導方法などについて学年で教示研究を行う。
- 聞く・話す・書くの3つのスキル定着のための効果的な取組を行う。
- 毎月全校で重点的に取り組む学習スキルを設定し、定着の取組について学年で話し合う。

【社会力】 互いの良さを認め合い ともに高め合う子

成果目標

- 「自分は、みんなのために何か役に立っていると思う」と答える児童を80%以上にする。
- 「自分から先に挨拶をしている」と答える児童が80%以上にする。

具体的な方策

- 個の役割を明らかにし、自己有用感を高めるための場を設定する。
- 学校行事や学年学級の活動を通して、児童に自己有用感をもたせる取組を計画する。
- 学年を中心に「進んで挨拶」を意識した挨拶運動を毎月行う。
- 年間を通した挨拶カードの評価を生かした挨拶運動を行う。

【体力】 規則正しい生活をし 進んで運動する子

成果目標

- 体力テストで、県の平均を上回る種目が55%以上になる。(53/96種目以上)
- 健康アップ週間で、自分が決めた就寝時刻を守る児童を80%以上にする。

具体的な方策

- 体力テストの数値目標を示しながら、柔軟性や握力を高める運動を体育授業に取り入れる。
- 運動能力の高まるトレーニング情報を提供する。
- 規則正しい生活週間の定着に向けた学級指導や個別指導を行う。
- 学校での指導をベースに保護者と共有できる資料を提供する。

一人一人を大切にする特別支援教育の推進

- 一人一人のニーズに応じた指導内容や指導方法を工夫する。(UDL、合理的配慮、環境整備、職員研修)
- 個々の個性や能力を伸ばし、楽しく生活ができるようにする。(個別の指導計画、交流・共同学習、障害の理解)

南小の教育を支える特色ある教育活動(南小らしさ)の継承と推進

授業力を高める

- 職員研修の充実(授業改善)
- 学習スキルの確実な定着
- Web配信への学年対応
- 燕長善タイムでスタート
- UDLの一層の実践

南小文化(南小らしさ)を継承する

- 地域に開かれた教育課程
- ICTの有効活用(教材開発)
- 英語活動・英語科の充実
- 全校ダンスの継承
- きれいな校舎(黙働清掃)

集団を育てる

- 集団把握(学級力・Q-U)
- 認め合う場の設定(学級活動・縦割り班活動)
- 進んであいさつ
- いじめを生まない集団づくり

子どもの学びや成長を確かめ合う学校評価の実施

- ・評価部会を機能
- ・一人一役の遂行(ミドルリーダー育成)
- ・協働態勢の確立

計画(P) ⇒ 実行(D) ⇒ 評価(C) ⇒ 改善(A)
PDCAサイクルの確実な機能

- ・説明責任の遂行
- ・保護者アンケート
- ・学校関係者評価(学校評議員)

チーム南小としての取組・社会に開かれた教育課程の実現

<保護者と連携した活動>

- ・PTA活動の推進
- ・子ども育成会との連携
- ◎家庭学習の習慣化
- ◎あいさつ運動の推進
- ◎アウトメディアの定着等

<地域と連携した活動>

- ・学校応援団事業の推進
- ・吉田南地区協議会との行動連携
- ・民生委員・児童員との連携
- ・市教委との綿密な連携
- ◎地域資源の積極的な活用と教材化

<幼・保・小・中の連携等>

- ・吉田中学校区での行動連携(中1ギャップ解消)
- ・学区保育園等の連携(小1プロブレム解消)
- ・特別支援学校の専門的支援